



## 生き活きまちづくりレポート



市議会議員 つつ木みゆき

### 12月議会 一般質問

### 災害時に ペットをどう守る？

日本は欧米に比べてペットの命を軽く扱う

傾向にあります。自動車に轢かれたりぶつかったりしても物損事故として対処します。ペットを物扱いする日本の考え方を変えなければ良い社会とは言えません。飼い主にとってペットは家族の一員であり災害時に飼い主と共に避難所に避難してくるのは自然なことです。しかし避難所には「動物が嫌いな人、アレルギーのある人、ペットの避難する所」など様々な課題があります。ペットを置き去りにして避難しなければならない、それならば自分も避難しない！という事例が無くなるよう安心して避難できる体制作りについて質問、提案を行いました。

海老名市では2022年2月から災害時などに開設する全ての避難所でペットの受け入れを開始しました。これを踏まえ9月4日を基準日として実施した避難所訓練では、国分コミセンと有馬小・中学校の2か所の避難所で試行的にペットの受け入れを行いました。それに伴い経済環境部で飼い主がペットを連れて避難するための「ペット同行避難ガイドライン」を作成しました。

**質問** 試行的にペット同行避難訓練を行った際見えてきた課題について

**回答** 避難訓練を行った際、ご協力いただいた市民の皆さまからアンケート等で生の声をお聞きし、その意見から大きく3点の課題が見えてきました。1点目、ペットエリアについて台風時の雨風や夏場の直射日光等、環境への対策を講じる必要性。2点目、ペットの糞尿の処理や管理。3点目、飼い主同士が協力する体制作りなどです。

ペット同行避難では基本ペットエリアは屋外となっています。しかし完全室内飼いのペットにとって飼い主と離れ屋外に置かれることは不安でしかありません。飼い主にとっても同じ気持ちだと思います。家庭動物のための避難スペースの確保が一番の課題です。暴風雨の時は難しくなりますが、学校などが避難所

### つつ木みゆきの一般質問

の場合、体育館の横のスペースに個別のテントを設置しペットと飼い主との居場所を提案しました。

糞尿の処理や管理については原則飼い主が行うものだと思いますが、災害時においては飼い主同士が協力する体制作りを構築すること、日頃から獣医師会や動物取扱業者から避難所におけるペットの適正飼育指導の講習などを受けられるよう獣医師会などとの連携を要望しました。

ちなみにペット同行避難における啓発活動の一環として埼玉県の朝霞市や愛知県の豊橋市では「ペットの災害手帳」や「愛犬手帳」などの発行を行っています。

### 文化財を生かした歴史あるまちづくり

私たちが住んでいる海老名市には歴史ある沢山の文化財があります。国指定や県指定、国登録重要文化財等全部で42件、これらの文化財は長い歴史の中で守り伝えられてきた貴重な市民の財産でもあります。この市民の宝を後世に残していくために子ども達にどのような取り組みが行われているのでしょうか。

本市の文化財の中でも代表的な「相模国分寺史跡」。歴史公園として整備され広々としたその場所は、子どもから大人まで来訪する多くの人々に癒しを与えてくれる大事な空間になっています。温故館においては、奈良時代に建てられたという七重の塔など国分寺の復元された姿を見ることが出来るVRの設置や史跡の広場では多くの親子連れが楽しみながら国分寺の歴史にふれる機会を作ろうと遊具の貸し出しを行なっています。

教育の現場では小学校3年生と6年生の社会科の時間に海老名の歴史について学び、中学生は温故館の職業体験を通じて相模国分寺史跡の歴史を学んでいます。その他にも勾玉作り体験など、海老名の歴史を後世に伝えていくための様々な取り組みが行われていることがわかりました。

現在、海老名駅周辺は益々活気あふれる場所になっていて若い家族が住んでみたい人気のまちになっています。新しい動きと同様に貴重な文化財を活用して歴史溢れるまちづくりを進めていくよう要望しました。

### 親による 性交有罪相次ぐ

18歳未満に対して実父や養父ら「監護者」の立場を利用して性交する監護者性交罪での有罪判決が相次いでいる。

厚生労働省によると各地の児童相談所に20年度に寄せられた性的虐待の相談数は2245件に上る。周囲の大人に相談しても「事なかれ主義」で取り合ってもらえないこともあるとして相談数は「氷山の一角」とみている。「#MeToo」運動が世界で広がったように「家庭内の性被害について打ち明けやすい土壌を醸成する必要がある」としている。  
\*性犯罪を巡る刑法改正  
性犯罪に関する刑法の規定は2017年、大幅に改正され強姦罪の名称は強制性交罪に変更された。法定刑の下限は3年から5年に引き上げられた。「親告罪」の規定は削除され、被害者の告訴なしで検察官が起訴できるようになった。

気になる新聞記事

# みんなにやさしい ごはんを たべたい!



「地域で持続可能な循環する場を増やし、だれにでも優しい食を守り、子どもたちに安全安心な給食を届けたい!」という思いを胸に、『えびなみんなにやさしいごはんプロジェクト』始動しています!

国は「みどりの食料システム戦略」を打ち出し、グリーンな栽培体系への転換をサポートし、オーガニック農地を2050年までに現在0.6%から25%に増やす目標を立てています。先日海老名市でオーガニック栽培をしている「楽菜(らくさい)ファーム」さんに見学に行ってきました。

オーガニック野菜はオーガニックじゃない野菜に比べて、ミネラルを多く含み、野菜の本来持っている生きる力が強いので、虫を寄せ付けません。そして野菜がみんな立ち上がって、力強かった。ふかふかの土の畑がとても美しかったです。早速購入し、美味しさに感動しました。美味しく、環境にも人にも優しい選択をしていきたいです。  
(子ども部会 樋渡)

## ネットの 視点

### 平和な社会へ 軍備拡大は不要

岸田政権は2022年12月16日に、安保関連3文書を閣議決定しました。「国家安全保障戦略(NSS)」では安保環境が戦後最も厳しいとして、「国家防衛戦略」と「防衛力整備計画」で防衛力を強化し、敵基地攻撃能力(反撃能力)を保有するのに、防衛費を1.5倍にするという。

ロシアのウクライナ侵攻や、ミサイル発射をくり返す北朝鮮や軍拡の中国に日本がまきこまれるという不安で国民を煽り、軍拡することには反対します。敵基地攻撃能力が抑止力になるという考えは、対抗する勢力間で際限のない軍拡に陥り、緊張の糸が切れたとき戦争を引き起こします。

世界の動きを様々な視点で捉え、世界平和への政策を国会で議論すべきです。分裂していく世界の中で、日本が果たす役割は一方の勢力に加担し軍拡を押し進めるのではなく、平和憲法に則った外交努力をすることではないでしょうか?そして、防衛費への増税よりは、超少子社会において子どもへの投資が必要です。NATO諸国の軍事費はGDP比2%ですが、保育・子育て等のGDP比は独2.39%、仏2.88%、英3.24%に比べ日本は1.73%です。(国立社会保障・人口問題研究所より)

憲法に基づいた専守防衛に徹するという戦後安保体制の大転換、新設や60年越えを使う原発政策の大転換を国会で十分な審議もせず、国民に選挙による民意を問わず、閣議決定することは民主主義を冒瀆し、立憲政治を壊しています。違いを認め互いを受け入れ理解し合うことが今一番大切です。

## 国指定の史跡

### 「相模国分寺跡」の景観を次世代に

相模国分寺跡は、国指定の史跡です。史跡は、特に歴史的、学術的に価値が高い場所とされ相模国分寺は、1300年程前に聖武天皇により全国に国分寺が建立されたひとつで県内唯一の建立地です。海老名市民の誇りであり海老名市のシンボルです。

ところが相模国分寺跡の南側隣接地に一部14階建てマンション計画が持ち上がり、地域住民を始め市民から国指定の文化財に対する景観の保護が求められています。しかし重要な文化財にも関わらず隣接する地域が、第1種居住地域であるためこの計画は違法ではありません。

そのため、景観を損ねる高層住宅等の制限がある「第1種低層住居専用地域」(建物の高さ制限10メートル)の用途地域変更を求める陳情を提出しました。

12月8日経済建設委員会の審議では、周辺住民の合意がないこと、私権制限につながりかねないことなどにより不採択となりました。

相模国分寺跡は、緑の芝生と青空が広がり開放感のある歴史公園として市民の憩いの場となっています。史跡の周辺を含めた景観を次世代に継承するために、諦めず文化財周辺の建築物の高さ制限を求めていきます。

(相模国分寺史跡の景観を守る市民の会 斉藤)

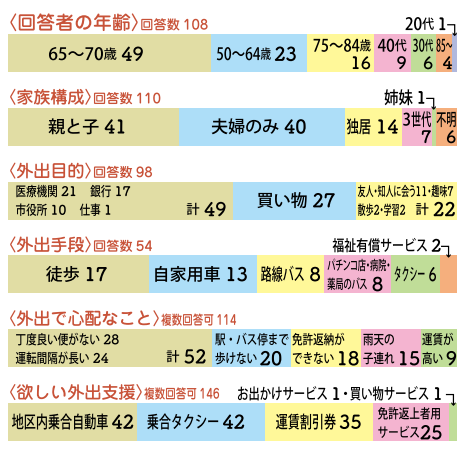
## 「あったらいいね お出かけ支援」 アンケート

「バス停への坂道で外出がしづらい。」の声から、外出で困っていること、欲しい外出支援などについて生活クラブ組合員と海老名ネット会員へアンケートをしました。住み慣れた地域で、自分らしく暮らすためには、自由に外出できることが必要です。

65~74歳の前期高齢者夫婦のみ世帯の回答が多く、「コミバスは本数が少なく利用しにくい。」「薬局の送迎バスは利用者が増え、予約が取りづらい。」など独居や歩けなくなった時の不安が見えました。子育て世代は雨天時の子連れ外出がしづらい現状です。予約制の乗合交通、コミバスやぬくもり号の運行整備、免許を返上しやすくする施策等が必要です。移動手段だけではなく車椅子やベビーカーの通れる歩道の整備、外出介助者等を望む声もありました。外出は毎日の生活に欠かせないばかりか、人との交流で心身の健康維持に繋がることが外出目的の回答から読み取れます。

市は今年度から「高齢者等移動支援福祉人材育成事業」に取り組み、地域ボランティアによる住民主体の移動支援グループや福祉有償運送NPOの創設を目指しています。また、昨秋から商工会では移動販売サービス等を開始しました。市民の声が反映した支援策になるよう提案していきます。(西田)

## 外出支援アンケート・グラフ (2022年10月実施、単位人)



## ●つつ木みゆきのお話タイム●

- ▶ 2月3日(金) 10:00 ~ 12:00 国分北3緑苑自治会館
  - ▶ 2月4日(土) 14:00 ~ 16:00 柏ヶ谷コミセン
- このほかにも開催する場合は、地域にチラシでお知らせします。  
議会後には地域に出向いてコミセンや個人宅などで議会報告会を行っています。  
問い合わせ先: つつ木 046-234-3264

編集後記 戦争の準備が着々と進んでいる日本。再び戦争が起きるのか? いや、絶対に戦争を始めさせてはならない! 私たちにできることは、戦争にNOを突き付け憲法九条を守ることだ。そのためにも、統一地方選挙で「戦争をしない暮らしを守る!」と約束する候補者に投票しよう。(MN)

\*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。  
お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。